

大衆演劇へようこそ

美しくっておもしろい、
庶民の娯楽、ここにあり！



おーちようこ

協力 篠原演劇企画

会いに行ける アイドルの原点!

距離が近い、芝居で泣き笑い、舞踊ショーではため息と悲鳴が。

「大衆演劇人」の
リアルな声を届け。

大衆演劇へようこそ

美しくっておもしろい、
庶民の娯楽、ここにあり！

おーちようこ
協力 篠原演劇企画

星海社

212



SEIKAISHA
SHINSHO



はじめに

—— いったって大歓迎!

大衆演劇は実に間口が広く、敷居が低かった

初めまして。ライターの、おーちようこ、と申します。

舞台好きが高じて、この星海社新書で『2・5次元舞台へようこそ ミュージカル『テニスの王子様』から『刀剣乱舞』へ』なる初の単著刊行、という僥倖に恵まれました。そしてこの度、新たな舞台の世界と出会い、その魅力を届ける機会をいただきました。

それが、大衆演劇です。

ある日、突然出会った世界は驚きだらけ、知らないことだらけでした。

毎日がう演目! 曲のたびに変わる鬘と衣装! 毎月、変わる公演先! この人たちの頭のなかはどうなってるの!? いったいどんな仕組みなの? どんな想いで挑んでいるの? と気になりすぎて、これはもう聞きに行くしかない! と決意しました。

常日頃、己の生業として人の生き方や在りように心ひかれて、その熱を伝えたいと願っ

ているわけですが、今回、その切なる願いを聞き届けてくださったのが東京大衆演劇協会さん、篠原演劇企画さんと数多の劇団さん、それらを支える方々でした。

いきなり連絡して「本を作りたいんです！」と押しかけた、見知らぬ者を迎えていただいたのは、2021年5月のこと。実はおっかなびっくりでした。興行主って怖そう、とか、お作法も知らない新参者が伺って叱られないかな、とか——しかし、そんなことはまったくなく。実に真摯に、むしろ暴走気味な思いを受け止めてくださいました。

今回、それらの方々を最大の敬意を込め「大衆演劇人」と呼ばせていただきたく。舞台人、演劇人、歌舞伎美人、とかいろんな呼び名があるのだから、いいでしょう！

かくして多大なるご協力をいただき、数多の忙しい日々を送る大衆演劇人の方々のもとへ押しかけ、「今」を知るべく貴重な時間をいただきました。折しも世間はコロナ禍で、はからずもこの一冊は大衆演劇人の声とともに世相を交え伝えるものとなりました。

さあ、大衆演劇によろこそ！

はじめに——いつだって大歓迎！
大衆演劇は実に間口が広く、敷居が低かった 4

第1章

大衆演劇との出会いは、ある日、突然やってきた

17

なんだ、この極彩色の空間は!!!

ド派手な衣装にまばゆい照明、芝居に歌に踊りあり

そうか、これは娛樂なんだ……と知る 18

お客様方のスマートな応援っぷりに驚いて

お客様同士のほどよい距離と空気に感じ入る 22

コラム

チケットはどうやって買うの？ 25

第2章

教えて、大衆演劇を支える人々のこと

27

大衆演劇を支える劇場を創り、

今なお支える人々がいる 28

インタビュー

有限会社篠原演劇企画 専務取締役

篠原正浩

29

思い立ったら即実行！

全部、自分たちでできるからおもしろい 29

特別インタビュー

東京演劇協会会長・有限会社篠原演劇企画 代表取締役

篠原淑浩

35

絶対に、できない、とは言わない

お客様、そして劇団のために全力で尽くします 35

第3章

教えて、興行主、そして劇場主の思い

43

興行主として常に考えていることは

劇団がやりたいこととお客様が観たいことのバランスです 44

ここに来たら、楽しい、寂しくないと思っしてほしい

劇団にもお客様にもほっとする場所でありたいんです 49

アイデア満載！

地元イベント参加から十条駅前の看板に

SNSの発信やポイント制度も考えます 53

第4章

教えて、劇団さん

59

一ヶ月ごとに着物や鬘、生活用品一切合切を連れて

劇団丸ごと旅する日々、そこにあるのはまごうことなき、日常 60

「なにがあるかはわかる。けれど、数はわからない」
劇団暁、「乗り込み」密着レポート 60

インタビュー

劇団暁 若座長

三咲暁人

68

毎月、新たな土地で寝泊まりできる

その土地の美味しいものが食べられる

やりたいと思うことが実現できる

大衆演劇の役者だからこそ味わえる楽しさがある 68

しんどいけど、舞台に立つと全部、吹き飛んじゃう！

こんなに楽しい仕事はない 74

ひとりでも多くの方に劇団を知ってもらうために

「暁だからこそやれること」を見つけたい 79

第5章

教えて、劇場のこと 85

住み込みで働く場、という考え方なので
できる限り快適に求められるものに応えたい 86

「できない」とは言いたくない

舞台上、ときには客席まで使い数多の世界を作り出す
棟梁のお仕事レポート 92

高さ3m 50cm×幅8m!

劇場になくはならない背景幕、制作レポート 99

教えて、役者を彩る、着物や髪への思い

日々の舞台に欠かせない衣装や髪

1回の公演でときには10着近く、着替えることも!?

そこには役者自身の想いと癖が詰まっていた

インタビュー

劇団美松 座長

松川小祐司

役者は基本、わがままです

それを聞き届け形にしてくれるクリエイターの存在は大きいです

着物は日々、舞台で着る日常のお品です

だからこそ自分の感性やこだわりが色濃く出ます

役に寄り添い、結い直したり飾ったり

役者にとって髪は自身の髪と同じです

インタビュー

有限会社山崎かつら代表取締役社長

山崎浩彦やまざきひろひこ

119

毎月、数百もの髪を劇場に運び込み、日々、異なる芝居を打ち、舞い踊るそんな大衆演劇人の心強い味方は、歴史百年余りの老舗の三代目 119

うちの知識と経験が役に立つなら

これほどうれしいことはありません 120

二十歳で東京に修行へ、26歳で入社して40年余り

自らをプロデューズし続ける大衆演劇の、善きパートナーでありたい 126

インタビュー

株式会社あさひや 取締役・衣装プロデューサー

溝田佳恵みぞた よしえ

133

大衆演劇の役者さんの衣装はすべてオーダーメイド！

生地や素材の染色と縫製、さらに早替えとリクエストに応えます

133

第
7
章

教えて、大衆演劇を楽しむために知りたいこと

149

こういった感じの衣装がほしい、と相談されたら
まずは「梱包できて発送可能か？」から考えます
134

私たちが手がけているのは役者さんが毎日、使うもの
だからこそ、ただ作る、だけでなく創意工夫を折り込みたい
141

知らなくても楽しめます！

けれど知って、より楽しんでほしいのです
150

ドキドキしながら、タイミングを見ての初めての
お花付け!?
推しタペストリーをはじめいろいろな応援の仕方
150

コラム 応援の新たな試み！ 153

推しの役者の肩書を知ること、新たに見える景色もある
知っていることより楽しめる、専門用語の一部もお届け 154

役付きと呼ばれる、役者さんの肩書を知りたい！ 154

大衆演劇界ならではの、用語集の一部をここに 157

コラム 梅沢富美男劇団の公演に突撃だ！ 166

第 **8** 章
教えて、大衆演劇役者の「今」 169

座長、若座長、花形、と異なる立場の大衆演劇人たち

10代から40代——託された立場で想う、これまでとこれから 170

座談会

劇団暁

若座長

三咲 暁人・三咲 隼人・

三咲 龍人・三咲 愛羅・三咲 憧

170

若座長を筆頭に次世代をになう、若き役者たちが!
今、劇団へ、互いへの思いを明かす 171

迷いながらも続けてきたからこそ「今」がある
だからこそ、より未来を見据えて 178

鼎談

橘小竜丸劇団鈴組

座長

橘 鈴丸

南條 隆とスーパー兄弟

花形

お嬢

龍 魔 袈 斗

劇団駒三郎

若座長

南 條 友 李 愛

185

最初は舞台に立ちたくなかった——!?

けれど、今はそれぞれに背負うものが、ある

186

鼎談

たつみ演劇BOX

兄座長

小泉たつみ・弟座長

辰己小龍

小泉ダイヤ

女優リーダー

辰己小龍

198

「元氣、持って帰ってください」

昔からそれをいちばん大切にしています 199

若い世代のためにも大衆演劇を守りたい

そのために変化をおそれず、できることを探して 204

若いうちに苦勞をしておけ、という父の教え

かくして16歳で座長へ——その肩書が「人」を作る 207

おわりに

——大衆演劇は日々、進化する娯楽であり、
会いに行けるアイドルの原点だ！

第 1 章

大衆演劇との出会いは、
ある日、突然やってきた

なんだ、この極彩色の空間は!!!

ド派手な衣装にまばゆい照明、芝居に歌に踊りあり
そうか、これは娯楽なんだ……と知る

かような世界、あるいは文化があることはなんとなく知っていました。たとえば、今ではバラエティ番組のご意見番として登場する梅沢富美男うめざわとみおさんが「下町の玉三郎」と称され、たいそう美しい女形だったとか、北野武きたの たけし監督の映画『座頭市』で話題になった愛らしい芸者姉妹の「おせい」を演じた美少女が、実は大衆演劇で注目の女形の方々（幼い時代を早乙女さおとめ太一たいいちさん、成長してからは橘大五郎たちばなだいごろうさん）だった、という程度。

あとは健康ランドやグランドホテルで公演しているといったイメージでした。薄い。
そんな、ある日。

「好きな大衆演劇の劇団が関東に来ているので、観に行きませんか？」
と、お誘いをいただきました。それが、2018年6月のこと。

声をかけてくださったのは、ある漫画家さん。拙著『2・5次元舞台へようこそ』の感想をくださるなど、ご自身も舞台を愛しコラムなどを執筆されている方で「お芝居好きなら、

一度は観てほしいと思って」とのこと。

もちろん「行きます！」と即答——それがすべての始まりでした。

訪れたのは神奈川県の川崎、味わい深い佇まいの大島劇場さん。1950年創業という歴史ある老舗劇場とのこと。木戸銭1600円（当時）を払い、一步、劇場に踏み込むと、60人も入れればぎっしりな畳の客席はすでに満員。座布団と座椅子が整然と並び、思い思いに観客がくつろいでいる。

客席と舞台が近い！ 畳敷きの客席の真ん中には板張りの花道があり、壁には芝居の演目（または外題）や舞踊ショーの題名が書かれた紙（貼り出し）がずらりとはためいている。天井からは所狭しと役者の艶姿がプリントされた大きなタペストリーが飾られ、まるで、ここだけが別世界。ガラス張りの商品棚にはおつまみが売られ、なかには持参したお弁当を広げて談笑しているグループも。まったり、ほのぼのとした空気に、初の大衆演劇観劇でお作法的に失礼があつては……といった気負いはどこへやら、缶ビールで乾杯、買って来たお惣菜を広げて開演を待ちました。

この日、観劇したのは橘小竜丸劇団鈴組さん。文字通り、目の前の近さで繰り広げられたのは煌びやかな衣装で舞い踊るショーとお涙頂戴な人情劇、からの華麗な舞踊ショー

(三部構成が多く、その理由は後ほど)。しかして、びっくりしたことだらけ。

このチケット代で本当にいいの!?

舞踊ショー、お芝居、ラストショーで3時間余りって!

いったい何回、お着替えになるの?

しかも着替えが速すぎる。

美しいかと思えばコミカル! かと思えば妖艶!

目が忙しい……けど愉しい……なんだこれ???

所作がとてつもなく美しく。芝居で滔々とうとうと台詞せりふを語りながら、さらさらと着物を着替える場面では手元をちらりとも見ずに、あれよあれよと結び直される帯、裾をはしよる指先、裾さばき、すべてが鮮やか。剣殺陣がド迫力、体幹がすごい。繰り返すけど、とにかく距離が近い、近い、近い……さらに舞踊ショーは撮影自由! お目当ての役者さんが登場するやいなや観客は一斉にスマホやカメラを構え、パシャパシャと(もちろんフラッシュはなし)。思わず私もスマホを構える……と、うっとりするような流し目が、ばっちりカメラ越しにこちらへにこり。目線が強い! 強すぎる。

舞台上ばかりではありません。お客様にもびっくりです。

第2章

教えて、大衆演劇を
支える人々のこと

大衆演劇を支える劇場を創り、 今なお支える人々がいる

江戸時代、歌舞伎は人々に娯楽を提供する「大衆演劇」として盛んになっていきますが、明治に入って外国との付き合いが始まると、歌舞伎は日本文化を海外に紹介する「国劇」となり、伝統や格式が重んじられるようになりました。木戸銭（料金）も高くなってしまい、歌舞伎は大衆のものではなくなっていました。

そんな中、より安く、より面白く、大衆に娯楽を提供しようと生まれてきたのが、旅芝居いわゆるドサ回りの演劇集団。彼らは、高級化・専門化していく歌舞伎に対し、笑劇や人情劇、派手な立ち回りの剣劇など、わかりやすく面白く芝居を演じ、全国各地でもてはやされました。「清水の次郎長」に代表される時代人情劇は、現在でも、大衆演劇の看板芸となっています。

（梅沢富美男 公式サイト https://umezawatomio.jp/engeki/engeki_002/ 「歌舞伎とここが違うの。」より引用）

歌舞伎から派生し、全国各地を回りながら世相を取り込み、庶民のエンターテインメン

トとして愛されてきた大衆演劇——ここでは、それらを届ける劇団を支える、劇場の歴史の一端を紐解きます。現在、老舗劇場として知られる篠原演芸場や浅草木馬館を運営し、関東の大衆演劇公演を取りまとめる篠原演劇企画の元へ。

現在四代目として劇場を守る、3人兄弟の長男・篠原正浩さん（しのはらまさひろ）と、その父で三代目、東京大衆演劇協会会長にして有限会社篠原演劇企画代表取締役の篠原淑浩さん（しのはらよしひろ）に登場いただきました。

インタビュー

有限会社篠原演劇企画 専務取締役

篠原正浩

思い立ったら即実行！
全部、自分たちでできるからおもしろい

今回、大衆演劇の楽しさを多くの人に知ってほしい——そのためにぜひともお話を伺いたい、と真っ先に思い浮かんだのが、この御方。多くの座長から「若」と呼ばれ、慕われ

る篠原専務。常に笑顔を絶やさず、穏やかな物腰ですべてのことに対応する。

仕事の幅は実に広く、興行主として関東の劇団のスケジュール管理から劇場主として各劇場の運営、さらに個々のイベントやグッズの企画、果ては背景幕を描き^{えが}、大道具も作ってしまおうという八面六臂^{はちめんろっぴ}の活躍を知られば知るほど、驚くばかり。その人となりを知りたくて、自身の軌跡を伺った。

——現在、篠原演芸場の四代目として日々、忙しくされています。

実は仕事だとは思っていないくて、全部が日常だと思ってるんです……というのも、この仕事はほぼほぼプライベートがないので。実は昨年（2020年）の2月末に父が倒れて、それまで劇団さんとの付き合いは主に父がやっていて、自分はその補佐と劇場のことが中心だったんですが、3月にコロナが本格化して4月に自粛が始まって……と、これまでに経験したことのないことだらけで目まぐるしさのまま、なんとかやりくりしています。

——そのなかで心がけていることはなんでしょう。

「おもしろい」がいちばんです。なので何事も無理、って考えないようにしています。「無

第 3 章

教えて、興行主、
そして劇場主の思い

大衆演劇は毎月、劇場を移動し、その地で一ヶ月、昼夜異なる芝居や舞踊ショーを毎日披露する、というとんでもないエンターテインメントです。そんな劇団と劇場のスケジュールを采配しているのが興行主。

現在、東京大衆演劇協会が公演先を采配している劇団は、大阪、九州の協会さんをお願いして関東に来ていただく劇団も含め、多い月だと18劇団ほど。そのなかで関東中心に活動しているのは11劇団。ただ、このコロナ禍で活動できていない劇団もあるとのこと。

一方で、同じく興行先として劇団を迎える劇場や健康ランド、ヘルスセンターといった年間、通して上演している施設は11ヶ所。半年だけといった不定期開演が2ヶ所、さらに短い期間上演が1〜2ヶ所。日本の北は北海道から西は三重県まで、と、それらの劇団と劇場のバランスを考えて年間のスケジュールを組むのが「興行主」という仕事。その内容が知りたくて、引き続き、篠原演劇企画の篠原正浩さんに再び登場いただきました。

興行主として常に考えていることは

劇団がやりたいこととお客様が観たいことのバランスです

——劇団と公演先のスケジュールを決めています。

自分で采配するようになったのは2020年初めからで、もともとは父が決めていました。「この劇団さんにいらしていただいたらどうだろう？」という提案はしていました。ただ、父が倒れコロナ禍から緊急事態宣言が出て……という状態で、これまでやってきたことが通じなくなり最初はすべて手探りでした。でも、だからこそ自分で決めて、できることからやっていったという感じですよ。

今となってはなにかが正解だったのかわかりませんが、続けてこられていることがひとつの答えだと思っています。もとより関東では浅草の木馬館、十条の篠原演芸場と劇団さんは2ヶ月続けて公演を打つので子どもの頃から知っている座長も多くて、心強くもありました。たとえば桐籠きりゆうご座こいかわげきだん恋川劇団の二代目恋川純こいかわじゆん座長は、当時、劇場にバスケットゴールを付けて終演後に一緒に遊んでいるような仲でしたから。なので大きな混乱はなく、むしろ劇場を閉めることが心苦しく、劇団さんのためになにかできるかを真っ先に考えてきた2年間でした。

——それらを決めるにあたり心がけていることはなんでしょう？

地域によってあう劇団さん、あわない劇団さんがおられるので、そこは気をつけています。内容の善し悪しと言うよりも、お客様の好みみたいなものがあって、動員に直結するのでいいねいに考えています。たとえば昔からある演目が好まれるとか、舞踊ショーも流行りの曲よりは演歌が好まれる地域というのもありますし、見誤ってしまうと劇団さんに迷惑がかかってしまうので。

ただ、生まれてこの方、20年以上は見続けているので感覚ではわかっています。さらに劇場の規模もあり、10人キャパのところは20人の劇団さんと呼ぶわけにはいかないのです。そういったことも含めて考えます。基本、収入は劇団と劇場で折半なので、各地の経営にも関わってくることで、毎月、真剣です。だいたい2〜3ヶ月先まで見据えて考えていきますが、いろいろな理由から直前で変更になることもあるので、そこはやはり経験です。

——確かに劇団と劇場を知っていないとできないことです。さらに、このコロナ禍で急遽、公演中止になることもありました。

いつ、どこで誰がかかったのか、いつかかったのかによりますが、基本、劇団は家族扱

第4章

教えて、劇団さん

一ヶ月ごとに着物や鬘、生活用品一切合切を連れて
劇団丸ごと旅する日々、そこにあるのはまづうことなき、日常

乗り込み。それは毎月末、自分たちの荷物のすべてを積み込み、翌月の公演先に持ち込むことを指します。繰り返しになりますが、大衆演劇は一ヶ月ごとに劇場を変え、昼夜と演目と舞踊ショーを上演、日本各地を旅している。

「なにがあるかはわかる。けれど、数はわからない」
劇団暁、「乗り込み」密着レポート

2021年8月30日。

この日、東京は十条の篠原演芸場で朝から膨大な荷物を運び込んでいたのは劇団暁さん。誕生は1983年、初代三咲^{みさき}てつや座長により旗揚げ。1994年に栃木県は塩谷町^{しおやまらち}船生^{ふねう}に拠点となる常設劇場「船生かぶき村」を構え、地元で公演を打ちながら関東の劇場も巡る家族劇団です。現在は兄の三咲夏樹座長^{なつき}、弟の三咲春樹座長^{はるき}を中心に次世代育成のため、2

015年に夏樹座長長男の暁人さんが若座長を襲名し芝居の演目と音響、舞踊ショーの構成や衣装を、次男の隼人はやとさんが照明を手がけています。劇団の見どころは息のあった華麗な群舞！ 全員で贈る舞踊ショーは下迫力で見る者を魅了します。

搬入は午前10時から始まりました。千秋楽を迎えた前の公演先から、その日のうちにすべての荷物をトラックへ。劇団の方々はその足で劇場入り、朝から備えます。荷物の総数はなんと、4トントラック3台＋劇団の自家用車！「乗り込み」のために毎月集まるスタッフさんが、舞台袖に続く劇場横の搬入口から次々と荷物を運び込みます。まずは着物を入れた衣装箱、鬘を固定して仕舞える鬘箱とそれらを詰めた鬘袋、扇子や傘に刀から舞台で使う小道具、照明・音響道具一式、さらには個人の私物になんとなんと冷蔵庫や洗濯機までひとそろえ。そう、劇団にとって劇場は芸の場でもあり、生



舞台袖の搬入口から一気に運び込まれる荷物の数々

活の場でもあるのです。

劇場の地下にある広い空間が次々と衣装箱で埋まっていく様は^{さま}圧巻！ の一言。ちなみに衣装箱とは文字通り、衣装を収納する箱、ですが、それだけではありません。畳んだ着物がほどよく収まる大きさで、フタを開け横倒しにして積み重ねることで、あつという間に衣装箱が誕生する、という優れもの。その昔は着物をしまった^{やなぎごり}柳行李を使い、次に優れた防湿性、防虫性を持つ茶箱となり、今の軽くて丈夫な形が大衆演劇専門道具屋さんによって開発されたとか。それらを軽々と積み重ねていく暁人若座長。試しにひとつ持たせてもらったところ、ものすごく重い……かろうじて数センチほど持ち上げると「おお、持てるじゃないですか」とお褒めの言葉。いや！ 持てるだけじゃダメでしょう……崩れないよう、出し入れしやすいよう、きちんと整えていく。これから一ヶ月、毎日、衣装を選ぶための準備なのだから。

さらに誰の衣装かわかるように、座長、花形といったそれぞれで箱の色を変えているのだとか。確かにこれなら一目瞭然。そこに細かくメモが貼ってある……よくよく見ると、

第 5 章

教えて、劇場のこと

住み込みで働く場、という考え方なので
できる限り快適に求められるものに応えたい

1998年2月1日、篠原演芸場がリニューアルオープンした、当日。その通りは「演芸場通り商店街」と呼ばれるようになったそうです。そこはJR京浜東北線の東十条駅から埼京線の十条駅を結ぶ、小さなお店がひしめく一本道。この名は今も親しまれています。

「このあたりではうちがいちばん古いですから、父が幼い頃は馬車が通っていたそうですよ」そう語るの、篠原演劇企画の篠原正浩さん。

毎月、膨大な荷物をまとめ各劇場へと乗り込む劇団がいて、それらを丸々と受け止める劇場がある——その日常を伺うべく、再び、篠原演芸場へ潜入。興行主にして劇場主としてお話を伺うとともに、ここでは大道具の制作部門として三度、登場いただきました。

——毎月、劇団の方を迎えて、日々の舞台に関するすべてを請け負っています。

劇団さんは毎月、あれだけの荷物を持って移動されているので、できるだけ快適に過ごしていただきたいと思っています。劇場によっては近くに住む場所を借りることもありますが、篠原演芸場は着替えたり化粧をしたりする楽屋と寝泊まりする住居が一緒なのでキッチンにシャワーもあります。リニューアル前は、舞台の下に地下室があつて、そこで寝泊まりしていたこともありますが、今は広くなったので、そこは衣装や道具を置く場所になつていきますね。

生活用品も一通り、そろえています。たとえば、お布団はあらかじめ人数を聞いて、毎月レンタルします。劇団さんによつて人数もちがいますし、座長の楽屋を作る場所もそれぞれです。なので、自分たちは打ち合わせといった以外では立ち入りませんし、一ヶ月、自分の家のように過ごしていただいています。

—— 一方で劇場として客席を整えたり、劇場が開くと切符売りに物販と忙しく。なかでも、炊きたてのご飯で作る「手作りおにぎり」はどっしりとした重さと具だくさんで、開演前には行列ができるほど、お客様にも評判です。

作るようになったのは、20年くらい前ででしょうか。ありがたいことにご好評いただいて、

いつしか名物となりましたね。これ、お客様がたくさん買ってくださって楽屋に差し入れることもあるんです。特に昼公演と夜公演の間は慌ただしいので、おにぎりです。すませます。

——お食事を差し入れることができますのはうれしいです。開演後に大量のおにぎりを買うお客様がおられて、いつ召し上がるのか不思議でしたが差し入れだったんですね！ そういった身近さはこの劇場ならではです。さらに先の取材では大道具から小道具まで、すべて劇場で作っているということでした。

できることは全部したい、そう思っています。今、大道具から背景幕まで作ることができ、劇場は少ないので、うちは珍しいと思います。これも本当にたまたまですが、浅草の国際劇場で最後の棟梁が引退して絵描きさんとして入ってくれたんですよ。国際劇場は1982年に閉館しましたが、今の浅草ビューホテルの場所にあつて、当時は「東洋一の五千人劇場」と謳われて松竹歌劇団や美空ひばりさんといった方々が出演されていた歴史ある劇場で。その棟梁さんに、一度、うちの背景幕を描いていただいたことがあつたんです。

第 6 章

教えて、役者を彩る、
着物や髪への想い

日々の舞台に欠かせない衣装や鬘

1回の公演でときには10着近く、着替えることも!?

そこには役者自身の想いと癖が詰まっていた

きらびやかな舞踊ショーにお芝居、日々の舞台で役者に欠かせない衣装に鬘。第4章でお伝えした通り、それらはとほうもなく膨大で役者の皆様、口をそろえて「何があるかは知っているけど、数は数えたことがない」との名言が!

けれど、そのひとつ、ひとつはかけがえのない想いで作られています。ここでは、劇団げきだん美松みまつの松川小祐司座長まつかわこゆうじに自身の着物と鬘、化粧へのこだわりと、それらを手がけ、大衆演劇を支える、株式会社あさひやの衣装プロデューサー・溝田佳恵みせた よしえさん、有限会社山崎やまざきからの代表取締役社長・山崎浩彦やまざきひろひこさんにお話を伺いました。

改めて、そこには深い大衆演劇への愛情といかにして舞台上で役者を輝かせるか? を日々、考え、寄り添い、支える人の姿がありました。

インタビュー

劇団美松

座長

松川小祐司

役者は基本、わがままです
それを聞き届け形にしてくれる
クリエイターの存在は大きいです

劇団美松は松川小祐司座長率いる劇団で、もともとは関東で人気を誇っていた「演美座」から名前を変えながらも、2014年に一座の長男である自身が座長を襲名しゅうめい、2017年には今の劇団名に改名。小祐司座長は好奇心旺盛で、舞台上でプロジェクトジョン・マッピングを披露したりと気になることはなんでも公演に取り入れてしまう行動派。アバンギャルドな世界観で



劇団美松 座長 松川小祐司

『弁天小僧』の世界をアレンジ、自ら脚本、演出、主演（もちろん美しい女形！）を務める『弁天小僧リオーガナイズ』は必見。そんな自身がこだわりぬいた、二着の着物といちばん使用範囲が広いという「つぶし島田」なる鬘、それらにあわせた化粧について伺いました。

最初に見せていただいたのは「お引きずり」という名前のお着物。普段は「お引き」と呼ぶことが多く、裾に厚みを出し長く引きずるからだとか。柄はもちろん特注。ご自身の坂東流名取のお名前、坂東^{ばんどう}蔦^{つた}之助^{のすけ}をいただいたときに作ったという。坂東流の替紋^{かえもん}「花かつみ」を大胆にあしらった意匠が美しい。さらに、ご自身がもつともこだわったという着物は自身の感性のまま趣味に走った柄だった!?

着物は日々、舞台上で着る日常のお品です
だからこそ自分の感性やこだわりが色濃く出ます

—この、お着物は？

坂東流の替紋「花かつみ」のお引きです。こちらはずっと習っていた、坂東流名取の名

精進だと感じています。

——ご自身の内面から生まれるものが着物や鬘の選び方や所作、というか生活につながっていると感じ入りました。最後に一言、お願いします。

役者は基本、わがままです！ その妄想する世界を立体にしてくださいのが鬘屋さんであり、着物屋さんです。そういった方々がいてくださるからこそ、私たちの世界は成り立ちます。

インタビュー

有限会社山崎かつら 代表取締役社長

山崎浩彦

毎月、数百もの鬘を劇場に運び込み、
日々、異なる芝居を打ち、舞い踊る
そんな大衆演劇人の心強い味方は、
歴史百年余りの老舗の三代目

有限会社山崎かつらは京都、東映太秦撮影所の前に本社を構え、往年の名作時代劇『水戸黄門』、『暴れん坊將軍』、『大岡越前』を担当。舞台では杉良太郎すぎりょうたろうさん、舟木一夫ふなきかずおさんといった名優の鬘製作、最近では松平健さんの『マツケンサンバII』での鬘も手がけたという歴史ある会社。

その三代目として、二十歳で歌舞伎の鬘で知られた「田島かつら店」に修行へ、新派、歌舞伎、舞踊の舞台鬘を学び、26歳で山崎かつら入社。以来、40年近く経つという山崎社長は、果たしてどのように大衆演劇と出会い、応援してきたのでしょうか？

うちの知識と経験が役に立つなら
これほどうれしいことはありません

——御社のInstagramを拝見すると、王道の和髪から艶やかな洋髪と実に幅広くて驚きます。どのように大衆演劇と関わるようになったのでしょうか？

映画の仕事が中心でしたが、だんだんと映画だけでなくテレビでも時代劇が減ってきた

有限会社 山崎かつら

〒616-8163 京都府京都市右京区太秦西蜂岡町9

☎075-861-1224

Instagram https://www.instagram.com/yamazaki_6104/



インタビュー

株式会社あさひや 取締役・衣装プロデューサー

溝田佳恵

大衆演劇の役者さんの衣装はすべてオーダーメイド！
生地や素材の染色と縫製、
さらに早替えとリクエストに応えます

株式会社あさひやの前身は1932年創業の、呉服屋さん。戦後は遊郭の芸妓のために
艶やかな高級着物を扱い、後にカーテンなどの日用品から、祭り用品といった品まで事業
を多角化。

三代目となる清水一仁社長のもと、舞台衣装・祭り用品・着物と展開。2004年に「昇華転写」を着物の制作にも取り入れました。その技術を込めた舞台衣装のすべてを溝田佳恵衣装プロデューサーが手がけているといえます。他業種からいきなりこの世界に飛び込んだ、その情熱と秘められた想いを伺いました。

こういった感じの衣装がほしい、と相談されたら
まずは「梱包できて発送可能か？」から考えます

——小祐司座長から、原稿用紙に文豪の小説が印刷されたようなお着物を作っていたのだと伺いました。こういったオリジナルの着物はどう作られるのでしょうか？

どこからお話したら良いでしょう……まずは役者さんから、こういうものがほしい、というオーダーがあります。それは写真やイラストだったりするので、そのまま作ってしまうと著作権に抵触してしまいます。なのでテイストをすくい上げ、役者さんの希望に寄り添います。このときは確か「原稿用紙に小説のタイトルと作家名と好きな一文を入れてほしい」という依頼があつて、そういう世界観を好きなデザイナーが汲み取って作つたと記

7

第 章

教えて、大衆演劇を
楽しむために知りたいこと

知らなくても楽しめます！
けれど知って、より楽しんでほしいのです

ここまで大衆演劇に関わる方々を取材してまいりましたが、より楽しんでいただくためにイチ観客として、こんな応援があるんですよ、という一歩、踏み込んだアレコレのほんの一端をここではご紹介。用語集もお届けします。

ドキドキしながら、タイミングを見ての初めての
お花付け!
推しタペストリーをはじめいろいろな応援の仕方

こんなにお安い木戸銭でいいの……!? もっと払いたい!!! 衝動はある日、突然、やってきました。お花、付けちゃう? とはいえ、周りの先達はするするといとも鮮やかに付けておられるわけですが、ある日、決意を固めました。

今日こそは、お花を付けるぞ、と。

しかしてタイミングが実に難しい……さらに衣装のどこに付けるか? ネットの海から

作法について調べると、あれやこれやと指南が出てきて、ぐう、となりつつも、まずはピ
ン札を用意し、いざいかん。でも舞踊の邪魔になってしまったら？ とか悩みはつきませ
ん。結果、舞台正面に出ていくのは難易度が高い！ と思い、絶対に通られるであろう花
道横のお席を予約しました。

果たして。

時が止まったようでした。いざ！ と、すつ、と膝立ちになった瞬間、役者さんが気付
き、近寄ってきます。普段から近い舞台と客席よりも、遥かに近い……近い……ところに
美しいご尊顔が……やばい、ものすごくいい香りがする。ちかちかと瞳が輝き、口角があ
がって、あっ、微笑^{ほほえ}んでおられる……と思いつつ、ぶるぶる震える手をそつ、と襟元
へ。そこから、あまりよく覚えていません。

けれど。

付けたお花ごと、ひらひらと舞う姿は本当に神々しく、なんだつたらちよつと泣けてし
まいました。後日、同じように誘^{いざな}って、ご一緒した観劇仲間がやっぱりまんまと沼にハマ
り、勢い余ってお花を付けたときのこと。

「私のお花を付けた推しがひときわ輝いて見えて、眩^{まぶ}しかったの……」とのたまひ。

第 8 章

教えて、
大衆演劇役者の「今」

座長、若座長、花形、と異なる立場の大衆演劇人たち
10代から40代——託された立場で想う、これまでとこれから

たくさんの劇団さんが毎月、全国を回るなか、今、何を感じ、どんな目標を胸に日々を送っているのだろうか。楽しい公演を受け取る一方で届ける人々の心の内を知りたい——そう思い、この章では実際に観劇し、心華やぐ舞台を受け取った方々にお話を伺いました。語られたのはそれぞれの肩書をにない、日夜、切磋琢磨するリアルな言葉。

座談会

劇団暁

若座長

三咲暁人・三咲隼人・

三咲龍人・三咲愛羅・三咲憧

劇団暁さんは兄の三咲夏樹座長、弟の三咲春樹座長の兄弟を中心とした、家族劇団です。今回は夏樹座長の長男で23歳の三咲暁人若座長、次男で20歳の次男の隼人さん、三男で18

歳の龍人さん。そして春樹座長の長女で19歳の愛羅さん、長男で17歳の憧さんにお話を伺いました。

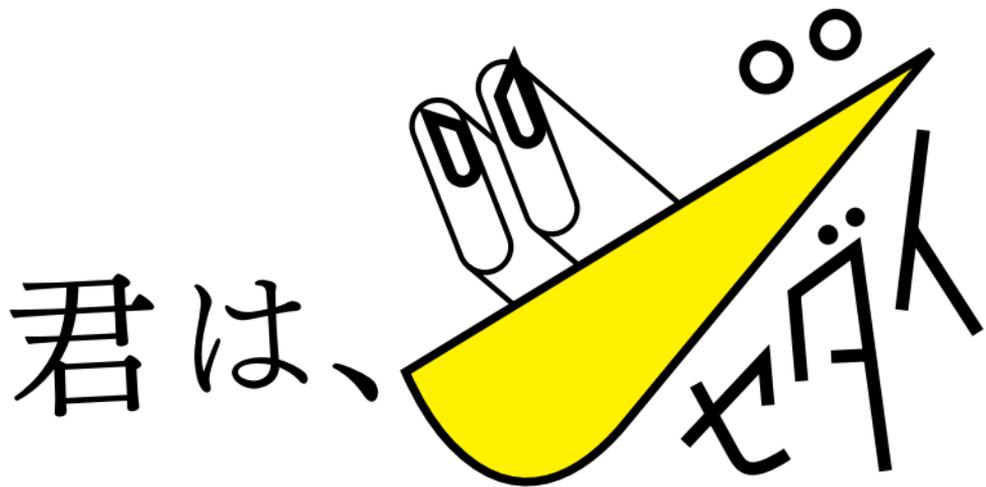
若座長を筆頭に次世代をになう、若き役者たちが
今、劇団へ、互いへの思いを明かす

— それぞれに役者として活躍中ですが、初舞台はいつでしょうか？

暁人..僕は、いわゆる「抱き子」で生まれたときから出ていました。役者として舞台に立ったのは2歳くらい……？ みんな、2歳か3歳くらいだと思います。

— 皆さん、芸歴10年以上です！ 改めて大衆演劇の役者さんのすごさを感じます。皆さん、群舞で暁人若座長の扇子の動きに瞬時にあわせることができるということです。

暁人..そうなんです。もともと群舞は僕が10代のときに、毎年、乗せていただいていた新潟の海華亭かわいという温泉宿の大広間があって。そこで毎回、若手というか、ちょうどこのメンバーであわせて舞ってみようよ、と始まったのが最初です。



君は、

ジセダイ

何と闘うか？

<https://ji-sedai.jp>

「ジセダイ」は、20代以下の若者に向けた、**行動機会提案サイト**です。読む→考える→行動する。このサイクルを、困難な時代にあっても前向きに自分の人生を切り開いていこうとする次世代の人間に向けて提供し続けます。

メインコンテンツ
ジセダイイベント

著者に会える、同世代と話せるイベントを毎月開催中！ 行動機会提案サイトの真骨頂です！

ジセダイ総研

若手専門家による、事実に基いた、論点の明確な読み物を。「議論の始点」を供給するシンクタンク設立！

星海社新書試し読み

既刊・新刊を含む、すべての星海社新書が試し読み可能！

マーカー部分をクリックして、「ジセダイ」をチェック!!!

行動せよ!!!